

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	看護学部生における臨床判断力育成の教育実践： 2年生の臨床判断教育プログラム構築と実践について				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸 まゆみ
	研究分担者	所属・職名	オレゴン健康科学大学 看護学部・名誉教授	氏名	Kathie Lasater
		所属・職名	オレゴン健康科学大学 看護学部・準教授	氏名	Ann Nielsen
		所属・職名	オレゴン健康科学大学 看護学部・講師	氏名	Ruth Tadesse
	発表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸 まゆみ

講演題目	
看護学部生における臨床判断力育成の教育実践：2年生対象のプログラム構築と評価	
研究の目的、成果及び今後の展望	
<p>【研究の目的】 現代の看護教育において、臨床判断力の育成は重要な課題であり、特に超高齢社会においては、多職種連携を通じて自律的に判断し行動できる看護師の養成が求められている。急性期医療や在宅医療の質向上に対応するため、看護師が科学的根拠に基づいて臨床判断を行う能力の強化が重要視されている。2022年度から新たな教育課程が導入され、臨床判断力の育成が重点項目となったが、取り組みは初期段階にあり、先行研究も限られている。本研究では、過去2年分の臨床判断教育の効果を評価し、米国の実践事例を参考にしつつ、学部2年生における臨床判断力を養成する教育プログラムを構築し、その成果を検証することを目的としている。</p> <p>【研究の成果】本研究は、以下の3つの目標に基づいて実施した。</p> <p>目標①過去2年間の臨床判断教育の評価：2024年4月から7月にかけて、2022年度および2023年度後期に実施された「災害看護セミナー」の臨床判断教育を評価した。教育内容、学生のアンケート結果、課題提出結果（計250名分）をもとに分析し、教育方法が学生の臨床判断力に与えた影響を評価した。その結果、効果的な授業要素が明らかとなり、今後のプログラム改良に向けた指針を得ることができた。</p> <p>目標②米国における臨床判断教育の実態学習：2024年11月、米国オレゴン健康科学大学で臨床判断教育の実態を視察した。この大学は看護教育における臨床判断教育を先駆的に導入した機関であり、視察を通じて、同大学の教育方法やプログラム内容を学んだ。</p> <p>目標③臨床判断力育成に繋がる教育プログラムの構築・実施・評価：2024年12月、評価結果と視察結果を基に新たな教育プログラムを完成させ、「災害看護セミナー」で実施した。実施後、2025年1月から2月にかけて学生のフィードバックを収集し、プログラムの評価を行った。初期評価ではポジティブな反応が得られたが、臨床実習における臨床判断の適用については引き続き評価と検証を行う必要がある。</p> <p>【今後の展開】 今後は、臨床判断力育成のための教育プログラムをさらに拡充し、学部2年生以降で段階的に実施していくことが求められる。また、他領域との連携を強化し、臨床判断力を育成する教育の普及を目指す。国内外の他の看護教育機関との協力を深め、教育の質向上に貢献することが重要である。今後の研究では、実習や医療現場での臨床判断を通じて、学生の判断力の向上が医療場面にどのように反映されるかを評価していく予定である。</p>	